

Title	吐魯番出土文物研究会會報 第14号（墳墓一覽号）
Author(s)	
Citation	吐魯番出土文物研究会會報. 14 p.1-p.6
Issue Date	1989-06-01
oaire:version	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/78824
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

吐魯番出土文物研究会会報

1989年6月1日
吐魯番出土文物研究会

第14号

(墳墓一覽号)

阿斯塔那古墳群墳墓一覽表

—スタイン隊発掘墳墓—

荒川正晴 編

【はじめに】

スタイン隊による阿斯塔那古墳群の墳墓の発掘は、その第3次探検(1915年)の際に行なわれた。全部でも、わずか50基足らずの墳墓に過ぎないが、当古墳群の検討に欠くことができないことは言うまでもない。とりわけ、近年の中国における発掘作業の進展とともに、相互の発掘墳墓の関係を等閑にはできない現状もある。そこで、本号にスタインの発掘した墳墓の一覽表を掲載することとした。

【凡 例】

- ①墳墓 番号は、A.Stein., Innermost Asia, London, 1928. (Rep. New delhi, 1981、以下I.A.と略称)による。
- ②埋葬者 合葬・A=2屍の合葬墓(男女合葬とは確認できず)
合葬・B=1男2女合葬墓, 合葬・C=3屍の合葬墓
なお、夫/妻(夫人)は、夫婦合葬墓であることが確認できるものであり、夫名+妻・名は、女屍の単葬墓であることを示す。
()は、埋葬者名の典拠を記す。墓=墓塚, 随=隨葬衣物疏, 功=功德疏
- ③没年 埋葬者の没年。()は、没年の典拠を示す。略語は、同上。
- ④伴出紀年文書..... A.Maspero, Les Documents Chinois, de la troisième expédition de Sir Aurel Stein en Asie Centrale, London, 1953. (以下、D.C.と略称) 所載の文書に限定。
- ⑤墓 伴出墓塚(録文と図版の典拠は、⑥に付記)。
- ⑥典拠 I.A.における、下記の内容に限定した該当箇所を示す。
A.C.A.=The Ancient Cemeteries of Astana (I.A., vol.2, pp.642-718)。この内、阿斯塔那の各墳墓に対する説明文であるSection I-III (pp.642-67)と出土品のリストであるSection IV(pp.680-710)を対象とする。また、墓塚の録文と図版の典拠を、これに続けて併記。
Ap.A=Appendix A (Chinese Sepulchral Inscriptions, I.A., vol.2, pp.983-87)
Ap.I=Appendix I (Chinese Inscriptions and Records, I.A., vol.2, pp.1032-46)
Pl.=Plates (I.A., vol.3)

①墳墓	②埋葬者	③没年	④伴出紀年文書	⑤墓	⑥典拠
I. 1	合葬・A		無紀年文書(1件), D. C., p. 111.		A. C. A., p. 645, 680-81.
I. 2	合葬・A				A. C. A., p. 645, 681.
I. 3	合葬・A				A. C. A., pp. 645-47, 681-82.
I. 4	張叔慶妻・魏太明(墓), 張延衡(墓)／妻・魏氏(墓), 合葬・B	張叔慶妻・魏太明・延和7年(608)(墓), 張延衡・貞觀20年(646)10月(墓)／妻・貞觀20年(646)6月(墓)	開元年代(c. 731), D. C., pp. 93-97, 111, 158.	3方	A. C. A., pp. 647-48, 682. Ap. I., pp. 1032, 1034-35.
I. 5	合葬・C				A. C. A., p. 648, 682-83.
I. 6	張口口(墓), 合葬・A	延壽9年(632)(墓)		1方	A. C. A., pp. 648-49, 683-84. Ap. A., pp. 983-84. Pl., LXXV.
I. 7					A. C. A., pp. 649-50, 684-85.
I. 8					A. C. A., p. 650, 685.
II. 1	単葬墓				A. C. A., p. 650, 685-87.
II. 2	合葬・A				A. C. A., pp. 650-51, 687-88.
II. 3					
II. 4	単葬墓				
III. 1					A. C. A., p. 651, 688-89.
III. 2	単葬墓				A. C. A., pp. 651-53, 689-92.
III. 3	合葬・A		開元10年(722), 天寶2年(743), D. C., pp. 99-102, 113-129, 135-36, 147-48, 158.		A. C. A., p. 653, 692-93.
III. 4			天授元年(690), 長壽2年(693), 神龍元年(705), 景龍3年(709), D. C., pp. 102-04, 109-10, 111, 113, 136-46, 149-51.		A. C. A., pp. 654-58, 693-96.
III. 5					A. C. A., p. 658.
IV. 1	范義(墓)	神功2年(698)(墓)		1方	A. C. A., p. 658, Ap. I., p. 1043. Pl., CXXVII.
V. 1	范永隆夫人・賈氏(墓)	乾封2年(667)(墓)		1方	A. C. A., pp. 658-59, 696-97. Ap. A., pp. 984-5. Pl., LXXIV.
V. 2	合葬・A				A. C. A., p. 659, 697.
VI. 1			升平8年(364), D. C., p. 82, 152.		A. C. A., p. 660, 698-99.
VI. 2			無紀年文書(1件), D. C., p. 112.		A. C. A., pp. 660-61, 699-700.
VI. 3					A. C. A., p. 661, 700-01.
VI. 4					A. C. A., p. 661-62, 701-03.

①墳墓	②埋葬者	③没年	④伴出紀年文書	⑤墓	⑥典拠
Ⅶ. 1	合葬・A		無紀年文書(2件), D. C., pp. 110-11.		A. C. A., p. 662, 703.
Ⅶ. 2			天授元年(690), 天寶年間, D. C., pp. 104-09, 111.		A. C. A., pp. 662-63, 703-04.
Ⅶ. 1					A. C. A., p. 663, 705.
Ⅷ. 1	王歡悦(墓)／夫人・魏氏(墓)	夫・永徽3年(652)(墓)／夫人・乾封2年(667)(墓)		2方	A. C. A., p. 663, 705. Ap. I., p. 1036, pp. 1038-9. Pl., LXXV, CXXVII.
Ⅷ. 2	汜延仕(墓, 功)／夫人・董貞(貞?)英(墓, 功)	夫・永昌元年(689)(墓)／夫人・乾封2年(667)(墓, 功)	隨葬衣物疏(功德疏), D. C., pp. 156-58.	3方	A. C. A., pp. 663-66, 705-08. Ap. I., pp. 1036-8, pp. 1042-3
Ⅷ. 3	王伯瑜(墓, 隨)／妻・唐氏(墓)	夫・延壽5年(628)(墓)／妻・延壽2年(625)(墓)	隨葬衣物疏, 魏氏高昌國時期文書, D. C., pp. 152-56.	2方	A. C. A., p. 666-67, 708. Ap. I., pp. 1033-4.
Ⅷ. 4	王歡岳(墓)	貞觀22年(648)(墓)		1方	A. C. A., p. 667, Ap. I. pp. 1035-6. Pl., CXXVII.
Ⅷ. 5		永淳元年(682)(墓)		1方	A. C. A., p. 667, Ap. I. pp. 1041-2.
Ⅷ. 6			繪章2年(669)～咸亨元年(670), D. C., pp. 129-35.		A. C. A., p. 667, 709.
X. 1					A. C. A., p. 667, 709-10.
09※1	王元祐(墓)	延昌11年(571)(墓)		1方	A. C. A., p. 710. Ap. A., p. 983. Pl., LXXV.
010	張相歡(墓)	永隆2年(681)(墓)		1方	A. C. A., p. 710. Ap. A., pp. 985-6. Pl., LXXV.
不明	王雅者(墓)	繪章元年(668)(墓)		1方	Ap. I., pp. 1040-1.
不明※2	陽士通(墓)	永徽6年(655)(墓)		1方	

【注】

- (1) スタイン编号のAst. 01-010に関しては、墓塚が伴出した09と010のみ取り上げた。
- (2) 504号墓からは、墓主に関する2方の墓塚が伴出しているが(会報10号参照)、『文物』1975年第1期(新疆维吾尔自治区博物館・西北大学歴史系考古專業「1973年吐魯番阿斯塔那古墓群發掘簡報」) p. 18の報告によれば、この2方のほか、7方もの墓塚がさらに当墓から出土したとする。これらは、簡報に指摘される如く、いずれもスタインの發掘に係るものであり、彼自身が改めてこれらを一括して504号墓に埋め直したと判断して大過ないと思われる。ただこのうち1方だけ、スタインが付した墳墓编号の見えないものがある。それが、この陽士通の墓塚である。この墓塚は、I. A. にも報告されていないが、取りあえずここに併せて掲載する。

吐魯番出土文物關係論著目錄（稿）

— 1959～1986・中文篇／補遺 —

關 尾 史 郎 編

【は じ め に】

本目錄のうち、1986年までに公表された中文の論著については、すでに公表する機会を得たが（『東西交渉』第5巻第4号、本会報第6、7号）、その際編者の不注意で見落としていたものが少なくないことが判明した。またその後、編者の勤務先（新潟大学）の附属図書館の尽力によって、国内で入手できない雑誌論文の複写に接することができたので、本号の余白を利用させていただき補遺を作成することにした（『新疆日報』掲載分については、あらためて一括整理して公表する予定である）。断わるまでもなく、編輯上の原則と形式については、今回新たに『中国敦煌吐魯番学会研究通訊』を『研究通訊』とした以外は、全ての面で今までに公表したもの、とくに第六号に準じているので、参照していただきたい。

概 説・研 究・紹 介

- (1) 葛金芳「中国封建租佃經濟主導地位的確立前提—兼論唐宋之際地權關係和階級構成的變化—」『中国社会經濟史研究』1986年第3期 1～8, 37
- (2) 孔祥星「吐魯番文書中的“常田”与“部田”」『中国歴史博物館館刊』第9期 1986年 50～59, 44
- (3) 耿鑒庭講・耿引循録「新疆吐魯番唐墓出土的藥方及藥丸」『江蘇医藥』1979年第4期 36～37
- (4) 黄烈「南北朝時期道教西伝高昌試探」中国魏晉南北朝史学会編『魏晉南北朝史研究』成都 四川省社会科学院出版社 288～299
☆再録：「吐魯番出土道教符籙与道教西伝高昌」黄烈『中国古代民族史研究』北京人民出版社 1987年 459～469
- (5) 谷苞「《西凉楽》与《伊州楽》—我国西北少数民族音楽文化与漢族音楽文化相结合的楽種—」『新疆社会科学』1982年第4期 47～56
☆再録：谷苞『古代新疆の音楽舞蹈与古代社会』烏魯木齊 新疆人民出版社 1986年 68～85
- (6) 鄒仲華「吐魯番出土文物中唐代雜技芸術」『新疆芸術』1986年第2期 18～22
- (7) 薛宗正「北庭故城与北庭大都護府」『新疆大学学报』1979年第4期 56～66
☆再録：林幹編『突厥与回紇歴史論文選集（1919—1981）』上冊 北京中華書局 1987年 420～442
- (8) 孫機「幞頭的產生和演變」『中国歴史博物館館刊』第9期（前出） 60～68
- (9) 陳竟「從新疆古代剪紙談中国剪紙淵源」『新疆芸術』1981年第2期 17～18, 66

- (10) 陳竟「新疆出土古剪紙研究」『新疆社会科学』1984年第4期 116~121
- (11) 杜毓来「吐魯番唐代古墓出土《甲乙經》抄本墨迹殘紙考補」『甘肅醫藥』1983年增刊 66~67

動 向・目 録

- (1) 季羨林「回顧与瞻望——一九八五年敦煌吐魯番學術討論會論文專輯序一」『研究通訊』1986年第3期 1~2
☆再録：『敦煌學輯刊』1986年第1期 1~2 / 「回顧与瞻望」『中国史研究』1986年第1期（既出）
- (2) （谷聞憲）「文化部文物局古文獻研究室——国内敦煌吐魯番學研究機構及其工作情況簡介（二）一」『研究通訊』1984年第2期 23~24
- (3) 沙嘯「一九八四年国内敦煌吐魯番學研究概況」『研究通訊』1985年第3期 2~12
☆再録：「一九八四年敦煌吐魯番學研究概況」『蘭州學刊』1985年第5期（既出）
- (4) （史美）「中国敦煌吐魯番學會語言文學分會一九八六年年會在酒泉舉行」『研究通訊』1986年第4期 12~14
- (5) 師勤・盧善煥・許福謙「一九八三年国内敦煌吐魯番學論著、資料目錄」『研究通訊』1984年第1期 26~36
- (6) （鍾昕）「北京圖書館成立中国敦煌吐魯番學北京資料中心籌備組」『研究通訊』1984年第1期 24~25
- (7) 宋家鈺「日本學者關於唐代均田制問題的研究和討論述評」『研究通訊』1986年第4期 1~12
☆再録：「日本學者關於唐代均田制施行問題的研究述評」『中国史研究動態』1986年第8期（既出）
- (8) 寧欣・李鴻賓「一九八三年我国敦煌吐魯番學研究情況簡介」『研究通訊』1984年第1期 3~13
- (9) （文朴）「中国敦煌吐魯番學會語言文學分會正式成立並舉行首屆學術討論會」『研究通訊』1985年第1期 4~5
- (10) 穆舜英「悼念我国中亞史學者馬雍同志」『新疆社会科学』1986年第5期 77
- (11) （楊際平）「厦門大學歷史研究所中国經濟史研究室——国内敦煌吐魯番學研究機構及其工作情況簡介（四）一」『研究通訊』1985年第1期 33~34
- (12) （楊際平）「中国敦煌吐魯番學、唐史研究与教學座談會紀要」『研究通訊』1985年第1期 6~12
☆再録：「中国敦煌吐魯番學与唐史教學研究座談會紀要」『中国唐史學會會刊』第3期 1985年（既出）
- (13) （盧向前）「北京大学中国中古史研究中心敦煌吐魯番文獻研究室情況簡介——国内敦煌吐魯番學研究機構及其工作情況簡介（一）一」『研究通訊』1984年第1期 19~20

- (14) 盧善煥・師勤「一九八四年国内敦煌吐魯番学論著、資料目録」『研究通訊』1985年第3期 31～43
- (15) 「中国敦煌吐魯番学会語言文学分会即将成立」『研究通訊』1984年第1期 24
- (16) 「1985年中国敦煌吐魯番学術討論会紀要」『研究通訊』1985年第4期 2～8
- ☆再録：(大会秘書組)「中国敦煌吐魯番学会一九八五年学術討論会紀要」『中国史研究』1986年第1期(既出) (以上)

お知らせ

1987年に中文で公表された吐魯番出土文物関係の論著のうち、唐西州時代の問題を扱ったものを前号で紹介しましたが、船越泰次氏も本誌では取り上げられなかった論著を紹介されています(同氏「兩税法研究史(二)一統・中国における兩税法研究」<『山形大学史学論集』第9号、1989年>)。以下の三点がそれですので、あわせてご参照下さい。

- ① 趙文潤「唐代義倉粟的賦税化」『陝西師大学報』1987年第4期
- ② 鮑曉娜「唐代“地子”考釈」『社会科学戦線』1987年第4期
- ③ 李天石「試論兩税法对唐代私奴婢的影響」『敦煌学輯刊』1987年第1期

お詫びと訂正

前号のp. 4に紹介しました柳洪亮氏の論稿(「安西都護府治西州境内時期的都護及年代考」『新疆社会科学』1986年第2期)に関し、現在吐魯番地区文管所に所蔵されている「唐令狐氏墓誌」が、如何なる経緯で同所に蔵められるようになったかは詳らかではないとしましたが、既に同氏が「唐天山県南平郷令狐氏墓志考釈」(『文物』1984年第5期、pp. 78-79)において、当墓塋の写真と録文を紹介されていたことを忘れておりました。それによれば、1979年2月に吐魯番県五星公社の建設大隊・八小隊の社員の発見に係る古墳墓(吐魯番県城南約7.5kmの地点)の墓道中から出土したと報告されております。ここに改めて、訂正させていただくとともに、お詫び申し上げます。

事務局(連絡先) 〒182 東京都調布市国領町5-19-14
 荒川 正 晴 方 TEL 0424(81)4633
 吐魯番出土文物研究会(The Research Society for Turfan Relics)